

西区の民俗・文化—川と橋—

近世以降の大阪は「水の都」とよばれ、特に西区の地域には堀川が縦横に巡っていました。川を使って物を運び、大阪は「天下の台所」と呼ばれ発展してきました。そこには「浪華八百八橋」とよばれるほど多くの橋が架けられ、市民の生活を支えてきました。しかし戦後、都市が整備される中で、堀川は埋め立てられ、橋もまた姿を消していきます。

『埋もれた西区の川と橋』伊勢戸佐一郎著 大阪中部ライオンズクラブ 1990

*ID 0000225539

『大阪堀江今昔—堀江三十三橋◇橋づくし—』水知悠之介著 燃焼社 2003

*ID 0010447110

『西区の埋もれた堀・川と昔あった橋』西区役所区民企画室 2002

*ID 0010442644 

『大阪の橋』松村博著 松籟社 1987

*ID 0000164468

『大阪の川—都市河川の変遷—』「大阪の川」編集委員会 編著 大阪市土木技術協会 1995

*ID 0000546980

『今・むかし・未来—川と西区—』西区役所 2007

*ID 0011366741 

『「西区」歴史とふれあう学習会講演録』竹田政広[講演]

[出版社不明] [2003]

*ID 0010864921 

この調べかたガイドでは、西区をテーマに4つのトピックを選び出し、それについて調べるのに役立つ情報源を、わかりやすく紹介しています。

ID 大阪市立図書館の「書誌ID」(お問い合わせの際にお伝えください。)

中央図書館に所蔵しているものは、IDの前に*をつけて表示しています。(*の無いものも所蔵館から取り寄せできます。)

小学生から読めるものはID番号の後に  オムリンマークをつけています。

WEB 大阪市立図書館のホームページ

紹介した資料やホームページなどはほんの一例です。図書館ホームページ「おおさか資料室」や各館のページにも「よくある質問」や区に関する資料のリストを掲載しています。より詳しくお知りになりたいときは、図書館のカウンターへご相談ください。図書館司書がお手伝いします。

調べかたガイド: 各区版

西区の調べかた

西区の史跡・名勝・建築

— 雑喉場魚市場跡 —

西区の人物— 木村蒨葭堂 —

西区を知る— 川口居留地 —

西区の民俗・文化— 川と橋 —

西区の花



大阪市立中央図書館

〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2

TEL 06-6539-3300

<http://www.oml.city.osaka.lg.jp>

開館時間 月～金曜日(第1・3木曜日は休館)

9:15～20:30

土・日曜日、祝・休日

9:15～17:00

休館日 ●第1・3木曜日(祝・休日は開館)

●年末年始 ●蔵書点検期間

西区の調べかた

Ver.2 2014.08改訂

西区の史跡・名勝・建築—雑喉場魚市場跡—

雑喉場(ざごば)とは、もともと魚市場全般をさし、魚の棚(うおのたな)、魚河岸(うおがし)などとも呼ばれます。元は鷺島と呼ばれていた土地でしたが、江戸時代、ここぞこ(小魚)類の販売が行われるようになり、魚が多く集まり雑喉場の名がおきました。現在の西区京町堀三丁目、京町通りの西にあたります。昭和6年に中央卸売市場に吸収合併されるまで、天満の青物市場、堂島の米市場と並ぶ大阪の三大市場として栄えました。

『大阪史蹟辞典』三善貞司編 清文堂出版 1986

*ID 0000214926

『西区の史跡』西区コミュニティ協会編集 大阪中部ライオンズクラブ編集 西区制百周年記念事業実行委員会 1979

*ID 0080177480

『大阪市西区わがまち今昔じまん』西区「わがまち百科」作成委員会編集 大阪市西区役所 1995

*ID 0000463041

『雑喉場魚市場史 -大阪の生魚流通-』酒井亮介著 成山堂書店 2008

*ID 0011726276



「雑喉場魚市」(『摂津名所図会 4下 大坂部』より)

WEB「デジタルアーカイブ」→「簡易検索」→ 摂津名所図会4下 より

西区の人物・伝説—木村兼葭堂—

江戸時代の町人学者で、1736(元文元)年、堀江の酒造家に生まれました。通称坪井屋吉右衛門。邸内に井戸を掘った際、葦(あし)の根が出てきたので、自宅を兼葭堂(けんかどう)と名づけ、彼自身もそう呼ばれました。物産本草学に精通し、絵画や文学、オランダ語、ラテン語などを学び、多様なコレクションを公開したため、全国から多くの学者が訪ねてきました。大阪市立中央図書館の傍らに、「木村兼葭堂邸跡」碑が建てられています。

『大阪人物辞典』三善貞司編 清文堂出版 2000

*ID 0000832804

『木村兼葭堂 なにわのレオナルド・ダ・ヴィンチ!?江戸時代の堀江が生んだ偉大なる文人、木村兼葭堂の一生』堀江ジャンクション/ARTGRAM 2005

*ID 0011154264

『木村兼葭堂 なにわ知の巨人 特別展没後200年記念』大阪歴史博物館編 思文閣出版 2003

*ID 0010459658

『木村兼葭堂のサロン』中村真一郎著 新潮社 2000

*ID 0000793265

『木村兼葭堂研究 水の中央に在り』水田紀久著 岩波書店 2002

*ID 0010305085

西区を知る—川口居留地—



「川口居留地『大阪と博覧会』(明治三十五年刊)より」(『明治大正昭和の大阪写真集 6』より)

WEB「デジタルアーカイブ」→「簡易検索」→ 川口居留地「大阪と博覧会」より

大阪開港とともに、1868(慶応4)年、川口町一帯に、外国人居留地が造成されました。貿易商人等が入居し、衣料品を中心とした貿易が行われました。その後、次第に港の機能が低下し、商人が離れた後は、キリスト教関係者が多く移り住むようになり、学校、病院、特に女学校が多く創立されました。当時の居留地内は、道路が舗装され、石油ランプの街灯がとるなど、大阪の近代化、文明開化の拠点となりました。

『大阪川口居留地の研究』堀田暁生・西口忠共編 思文閣出版 1995

*ID 0000445309

『懐かしい西区と川口居留地写真展』なにわの海の時空館 2007

*ID 0011503160

『川口居留地』川口居留地研究会

1号 1988.5 *ID 5100124734

2号 1989.12 *ID 5100124733

3号 1994.7 *ID 5100099692